

## 令和4年6月定例会 一般質問 木下充啓議員

※代表質問・一般質問の会議録より抜粋し掲載しております。(各議員からの「質問」(問)に該当する部分を黄色マーキングしております。)

### 「本市の公立小学校、中学校の学力レベルの現状と課題について」

○木下充啓 本日は、私からは香芝市の公立小学校、公立中学校の学力レベルの現状と課題について、もう一つ、視覚障がい者の方の移動時の安全確保について、この2つについてお聞きいたします。

令和4年全国学力・学習状況調査、以下全国学力テストと言いますが、これは4月に実施され、結果はこの夏に公表される予定であります。

現在公表されている最新のデータにつきましては、昨年5月に実施されました全国学力テストの結果で都道府県別に平均正答率、平均正答数が公表されています。

各都道府県の公立小学校、公立中学校の国語、算数、数学の平均正答数を合計し、その点数を各都道府県の公立小学校、公立中学校の合計点で順位づけすると、奈良県のパーセンタイルランクは小学校、中学校とも4.3パーセンタイルと極めて低い水準です。

地域の特色やそれぞれの事情もあり、単に全国学力テストの得点や都道府県の順位で児童・生徒の学力や地域の教育レベルを判断するものではありませんが、その結果は児童・生徒に基礎的な知識、技能が身につけているかを図る一つの重要な指標となることは確かです。義務教育の間に基礎的な知識と技能を身につけることは、今第4次産業革命 Society 5.0 と言われ社会や産業の構造が大きく変化していく中、子供たちの未来にとってこれまで以上に重要な意味を持つと思われます。

昨年度の全国学力テストの結果は、奈良県からも同時に行われた学習状況調査の結果と併せてその概要と今後の対応について公表されています。昨年度の全国学力テストの結果について、本市を含む奈良県の状況をどのように分析・評価し課題をどのように捉えているのか見解をお聞きして、壇上からの質問とさせていただきます。

○教育部次長 奈良県の学力の状況は非常に厳しい状況であると感じております。香芝市におきましても、学力の向上につきましては大きな課題というふうに捉えておるところでございます。

条件に合わせて論理的に筋道を立てて説明する力でありましたり、記述式の問題における正答率の低さ、あるいは無解答率の高さ、こういったところが課題であるというふうに分析しております。

○木下充啓 それでは、本市の状況について、国語、算数・数学、それぞれの現状と課題についてお聞かせいただけますか。

○教育部次長 国語では、小学校段階におきます漢字や言葉の使い方などの基礎基本、こち

らのほうが定着していないこと、それから文章を要約することが課題ということが見られました。要約するためには、内容の中心となります語や文を正しく読み取る必要がございますが、文章全体の中身を正確に把握できていないことも課題と上げられます。

それから、算数・数学のほうでございますが、小・中学校とも図形の領域に課題のほうが見られます。

面積を導き出すというのはできるんですけども、面積の求め方を正しく記述できないといったり答えを導き出した過程を条件に合わせて論理的に筋道を立てて説明する力などに課題が見られたところでございます。

あわせて、記述式の問題においても正答率が低い上に無解答率が高くなる、こういったことも課題だと捉えております。

○木下充啓 かなり基本的なところを課題として捉えていらっしゃると思います。

ただ、奈良県の現状につきましては先ほどはパーセンタイルで表現をいたしました、端的に申し上げますと47都道府県のうち奈良県の下にある県というのは2つ、小学校、中学校とも2つしかないという状況です。

そのような中で、香芝市がその奈良県の中でどれぐらいの水準にいるのか、もしくは都道府県の平均と比べてどうなのか、それはいかがでしょうか。

○教育部次長 現在、市単位の学力・学習状況調査の結果については公表していませんので数値でお示しすることができませんが、記述式の問題に対して諦めずに最後まで書こうと努力する、あるいは計画性を持って学習するといった子供のほうが正答率が高いという傾向が見られます。

学力の向上と併せて粘り強く学習に取り組む態度や、自ら学ぼうとする意欲を育てるという取組についても充実をさせていかなければいけないというふうに考えておるところでございます。

○木下充啓 意欲や取組の姿勢について教育をしていっていただくのは非常に重要だと思います。

それとあわせて、例えば数値目標のようなものを設定して学習していくというのは重要だと思いますが、そういった数値目標は設定していらっしゃるのでしょうか。

○教育部次長 この学力テストに関しまして、市として具体的な数値の目標は設定してございません。

ただ、各校においてテストの結果を課題の分析をいたしまして、学力向上の取組を進めていく上で読み書き、計算などの基礎学力の向上、もしくは自分の感じたことや考えたこと、こういったことを表現する力を高める、こういったように数値の目標ではなく子供に具体的に身につけさせる目標を設定いたしまして、各校はそれに対しての取組を行っている、このようなことになっております。

○木下充啓 読み書き、計算や記述する力を身につけるといのは非常に重要だと思いますが、それが身につけているかどうかというのを判断する基準というのがないのではない

かというふうに思います。そういう意味では、数値目標を設定して達成度合いが図れるということが改善に向けて必要な取組ではないかというふうには考えます。

そのような中であって、数値目標を設定していない現在の学校の目標というのは先ほどおっしゃった読み書き、計算や記述する力と併せてどのような目標を設定していらっしゃるのでしょうか。

**○教育部次長** 一例といたしまして、基礎学力の向上という目標を設定した場合につきましては、取組といたしましてドリル学習や反復学習を行ったり、もしくは朝の時間に確認テストやミニテストを行う、こういったことを継続的に進めておるところでございます。

また、表現力を高めるという目標をこれを立てておるところもございますが、それに対しましては単に書く量を増やすということではなくて、様々な教科の中に言語活動を取り入れまして、例えばキーワードを使ってとか何文字以内で書くというような様々な条件を使って書かすようなそういった取組のほうを進めておるところでございます。

**○木下充啓** 取組については非常にいい取組をしていらっしゃるのかなと思いますけれども、それが成果が出たかどうかというのは分かりにくいんじゃないかなというふうには考えます。

話を交えて、昨年の全国学力テストの結果を踏まえまして**教育委員会として新たに**  
**取り組んでいらっしゃるということはあるのでしょうか。**

**○教育部次長** 昨年度、学力向上に関しまして市内全校のヒアリングのほうを実施したところでございます。各校の課題をまず各校が分析いたしまして、課題解決に向けた目標や取組について聞き取っておるところでございます。

さらに、その問題、課題につきまして学校全体の課題であるというふうなことの認識を持ってもらいまして、学校全体で継続的に取り組んでいくようなことが進むように指導のほうをしておるところでございます。

今年度の進捗状況につきましては、今の6月中に全小・中学校から改めてヒアリングのほうを実施する、そんな計画をしておるところでございます。

**○木下充啓** 継続的に恐らく小西教育長が来られてから新たに取り組んでいらっしゃるのだと思いますが、具体的に各校で取り組んでいらっしゃる取組というのを全てというわけにはいきませんが特徴的なものについてご説明いただけますか。

**○教育部次長** 学力の向上に当たっては調査を行っているのが一部の学年ですが、該当の学年だけではなくて学校全体で取り組んでいくことが必要である、大切であるというふうに考えておりますので、学力に関する校内研修を開きましたりしながら学校を挙げて取組を進めておるところでございます。

ある学校におきましては、校内学力向上のプロジェクトチームを立ち上げまして学力向上を研究テーマにしまして授業改善を進めたり、もしくは教職員の授業力の向上、こういったところを研究しながら進めておるような学校もございます。

**○木下充啓** 非常に今回のテストの結果が楽しみになってまいりました。

財務省の総合政策研究所というところがございまして、そちらのフィナンシャル・レビューという雑誌の令和元年第6月号に掲載された論文がございまして、全国学力・学習状況調査の小学校別結果公表が児童の学力に与える影響についてというものです。

その要旨は、学校別の学力テスト結果の公表は、公表された学校に通う児童の学力を上げる効果があった、結果を公表された自治体の小学校では放課後の補習の頻度が増え、児童は家で宿題をやるようになっていたというものです。

例えば、大阪府は学校ごとの全国学力テストの結果を公表しています。本市でも、児童・生徒の学力向上のため**学校ごとの全国学力テストの結果を公表する用意はございますか。**

**○教育部次長** 正答率や順位のみが取り上げられて序列化、もしくは過度の競争となったりしてはいけませんので、学校ごとの成績を公表する予定はしておりません。

**○木下充啓** 確かに点数を上げることが目的化するというのは好ましいことではないとも思います。

それであれば、例えば学校別ではなくて市全体の平均について公表するというのはいかがでしょうか。

**○教育部次長** 公表につきましては、現在検討をしております。正答率などの数値だけではなくて、学力向上に関する取組でありましたり課題克服のための取組を比較・共有することができることも考えられますから、公表の是非につきまして教育委員会の中で慎重に審議のほうを重ねながら検討してまいりたいと思います。

**○木下充啓** 現在、奈良県で結果を公表している自治体というのはいかがでしょうか。

**○教育部次長** 確認しておりますのは、奈良市、生駒市、宇陀市の3市でございます。

**○木下充啓** 実際に奈良県で3自治体が公表しているということです。それぞれ目的、意味があると思いますけれども、ぜひ本市のほうも前向きに検討していただきたいと思います。

家庭環境の違いとか個性の違いがある児童・生徒がいるということを前提に、誰一人取り残すことなく全ての子供たちの未来の選択肢を広げ、そして豊かな人生を送るための基礎をつくることのできる、そういった意味が学力の向上、基礎的な知識と技能の習得にはあると思います。それを実現することによって、この香芝市も教育の町として魅力を向上していくことにもつながると考えます。

本市の学力テストの結果を公表することによって、具体的な数値目標を持つことや学習への意識づけを行うことができるようになるなど、結果的に児童・生徒の学力向上につながるのではないかと考えます。本市の児童・生徒の学力レベルを向上させるための一つの方策として、**全国学力テストの結果の公表をぜひ前向きに考えていただきたいと思っております。このことにつきまして、教育長の見解をお聞きします。**

**○教育長** 学力テストについて私自身は市の課長をしているときに市内の学校の中の様子を全部、私の中に全部入れました。そして、そのものを持って自分の学校に行きました。そのときに先生方にまず話をしたことは、自己満足の教育は駄目ですよと、今この学校の位置はどのぐらいの学力があるかということは先生方には言えませんが、ただもしかしらば勘

違いされている部分があるんじゃないかということで徹底的に取組をしました。

学力は1年で上がりません、今年も期待しておりますけれども1年では無理です、3年も4年も5年も6年もかかったら1年生の子が6年になったときにその結果が現れてくるということも実践しております。

そういう面では、昨年は各校長先生には自分の学校と他校の比較を示しました。これは一つ、学校長がどのように各学校の先生方に守秘義務を持ちながら学校の課題を追求してくれるかということを期待しております。

他市町村に比べてヒアリングの回数も多いです。しっかり上げようという思いは持っております。それから、学習だけでなく知徳体のバランスのいい子供たちになっていただきたいという思いを強く持っておりますので、学力も含めて上げていきたいなという事は思っております。

○木下充啓 ぜひ子供たちの未来のために、それが先生方には公表もプレッシャーになるかもしれませんが、ぜひ前向きに検討いただければと思います。

#### 「視覚障がい者の移動時の安全確保について」

○木下充啓 では、2つ目、視覚障がい者の方の移動の安全確保についてお聞きします。

今年4月に県内の踏切で視覚障害のある方が電車と接触して死亡するという不幸な事故が発生しました。報道によりますと、踏切内に入ったところ、遮断機が下り始め、線路内で自分の位置が分からなくなったことによって立ち止まってしまい、そこに電車が来たということです。同様の事故は、昨年静岡県三島市でも視覚障害の26歳の男性が列車にはねられるという事故が発生しています。

その4月の県内の事故の発生を受け、国土交通省は踏切内で立ち位置を認識できるよう、踏切に点字ブロックを設けるなど自治体等の道路管理者に求めるよう関連するガイドラインを改定するとしています。一刻も早い改善が待たれるところでありますが、本市には踏切というのは幾つあるんでしょうか。

○都市創造部長 本市では46か所の踏切がございます。

○木下充啓 路線3つ、駅もたくさんあって便利な反面、踏切も多いというのが本市の特徴かもしれません。

大和郡山市では、この事故を受けまして国土交通省のガイドラインの変更を待つことなく市内の踏切にエスコートゾーンと呼ばれる点字ブロックの設置を決めています。既に7日に工事が終わり、今もう設置されている状況です。

視覚障害者の方が安全に通行できる対策を施された踏切というのは本市にはあるんでしょうか。

○都市創造部長 本市には、踏切に視覚障害者の方が安全に通行できる対策を施された踏切は現時点ではございません。

○木下充啓 6月中に関連するガイドラインを見直すということになっていますが、**国交省のガイドラインが見直された場合の本市の対応についてお聞かせください。**

○都市創造部長 国土交通省は6月中にもガイドラインを改定するとの報道がございました。道路管理者といたしましては、ガイドライン内容を確認した上で今後の対応方針を検討してまいりたいと考えております。

○木下充啓 早急な対応をお願いしたいところではございますが、6月中にガイドラインが変更されるということや予算の確保も必要ということですので、ガイドラインの改定を待ちたいと思いますが点字ブロックの敷設には相応の時間がかかると思います。

**点字ブロック以外の安全対策としてほかに考えられることはありますでしょうか。**

○都市創造部長 視覚障害者誘導ブロック敷設基準書や解説書には、踏切のある道路については誘導は行わない、遠回りになるほかの経路を選択するとなっております。ただし、他の経路がないなどの理由によりやむを得ない場合は、点字ブロックを設置し安全を確保するとなっております。

現時点では、ハード整備といたしましては点字ブロック以外の安全対策は難しいのかと考えております。

○木下充啓 ハード面で点字ブロック以外対策がないということであれば、ソフト面、つまり市民の方の意識、行動によって障害のある方の移動の支援を行うということが重要かと思えますけれども、その点についてはいかがでしょうか。

○都市創造部長 市民の皆様への啓発といたしまして、本市が取り組んでおります一つの事業として心のバリアフリー事業がございます。例えば、歩道や点字ブロックといった物理的なハード整備ではなく、周囲の人からサポートを受けることで高齢者や障害を持っておられる方の移動等が円滑になる場合がございます。このように、周囲に困っている人がいれば思いやりの心を持って自らサポートの手を差し伸べること、それが心のバリアフリーでございます。

今後、市民の皆様に対してもこうした意識啓発の取組がより一層求められるのではないかと考えております。

○木下充啓 実際、視覚障害の方もほかの方のそういう気遣いやサポートがあると非常に助かるということをおっしゃっていました。

市民の方に早くかつ広く心のバリアフリーを浸透させるために取り組む、その取組の内容についてお聞かせいただきたいと思えます。

○都市創造部長 現在、心のバリアフリーの推進に関する取組の一つといたしまして、毎年市内の小学生を対象としてバリアフリー教室を開催しております。バリアフリー教室では、車椅子の使用やアイマスク体験をはじめ当事者の方の体験話を聞くといった内容など、こうした体験を通してバリアフリーの重要性、障害のお持ちの方や高齢者の方への気遣いや思いやりの大切さを学ぶ機会を設けていくことがいいのではないかと考えております。

また、公共施設などの利用に際してバリアフリートイレや車椅子用駐車場といった施設

の適切な利用に関する啓発も行っておりまして、そうした施設を一定必要とする人が必要とするときに円滑に利用できるよう、ホームページやポスターなどにより広く周知することが啓発につながると考えております。

○**福祉部長** 障害福祉施策につきましても、障がい者計画の基本理念でございます全ての人が支え合い、安全で安心な暮らしのできる地域共生のまちづくり、こちらの実現に向け、関係団体等と連携し、ホームページ、チラシ、または研修などにより障害のある方や障害の特性等に関する市民理解のさらなる啓発に取り組んでまいりたいと考えております。

○**木下充啓** 今、津本部長のほうから毎年市内の学校でバリアフリーに取り組んでいるということをお聞きしましたが、それは毎年全校でやっていらっしゃるのでしょうか。

○**都市創造部長** 小学校1校、どこかを決めて1校でさせていただいております。

○**木下充啓** それは全学年が対象になるのでしょうか。

○**都市創造部長** 全学年ではなく1学年という形でやらさせていただいております。

○**木下充啓** 毎年1つの学校の1つの学年ということはかなり限られた人数になると思います。もう少し広げていくということは考えられないのでしょうか。

○**都市創造部長** その部分についてはまた検討させていただきたいというふうに考えております。

また、小学生だけではなく一般の方を交えての駅でのバリアフリーというのも考えておりますので、コロナが収束すればそういったこともさせていただこうというふうに検討させていただいております。

○**木下充啓** 市民の方に早くかつ広く心のバリアフリーを浸透させるための取組をよろしくお願いいたします。

誰もが住みやすい町、安全・安心なまちづくりを進展させ、障がい者計画の理念実現に向け一層の取組強化をお願いして、私の一般質問を終わらせていただきます。